

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2022年

3月

199号



すまやかに

◇ コロナはなぜ収まらないのか？
正法（妙法）実践で感染を防ぐ！

宗教法人 真生会

信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

創立 43 周年立教祭のお知らせ

リアル、リモート併用ハイブリット開催！

来る4月17日午前10時から、真生会創立43周年立教祭を開催します。昨年につきコロナ蔓延防止対策のため、地元岐阜地区の会員信徒の皆様は、マスク着用、手指消毒を徹底し、リアルの直接参拝でお迎えます。県外教会、遠方信者の皆様はYouTube 真生寺ナムル・ライブ配信でリモート参拝をお願いします！



厄除け節分祭厳修

二月六日（日）朝十時より、

総本山真生寺、大阪教会で厄除け節分祭のご祈祷が行われた。コロナ対策のため、ご祈祷者のみの参拝で行われた。導師会長先生の魔除けの切り火、巫女のお浄めの鈴払い、ご祈祷、ご祈祷者の献花供養が行われた。その後、会長先生の「今年の運勢解説」がライブ配信された。



仏花奉納



お浄めの鈴払い

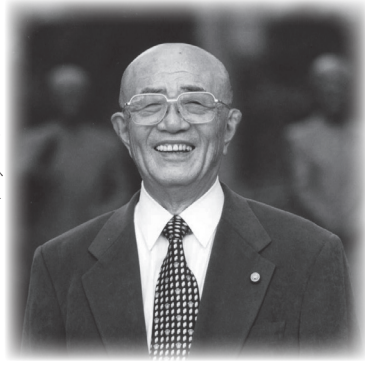


厄除けお祓いの儀

トンガ王国火山噴火、津波災害
救援募金ご協力御礼

募金総額 ￥280,000

募金はユニセフを通じて支援致しました。みなさまの心からのご協力に感謝申し上げます。



開祖さまのみ教え

開祖 田中 偉仁

仏教ではこの世の中を娑婆しゃばといい、「忍土にんど」
とも言います。家が面白くないからと旅に出た
り、長男の嫁と暮らすのが辛いからと、次男や
娘の所へ逃避とうひこうしたり、姑と意見が合わぬから里へ帰るとかのトラブルが
よくあります。楽しい観光旅行でも、海の幸山の幸のお据すえ膳で何不自由
のない日が十日も続くと、お茶漬ちやくけが食べたくなったり、わが家が恋しく
なるのはなぜでしょうか？人生は忍ぶ所ですから、「忍ぶ事」がなくなれば、
表面的には幸せそうに見えますが、味もそっけもなく魅力がなくなつて嫌いや
になるのです。万物の霊長たる人間のすばらしさは、恩を知つてこれに報
いることと、忍ぶ力があることです。この長所を失えば勝つても負けても
最後は亡びるのが世の姿です。人里離れての一人暮らしは他を干渉したり
干渉されたりしないので罪を作らず良きそうに思えますが、徳は積みませ
んし、向上もなく活力も湧いてこないのです。（真実に生きるひかり33号より）

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇コロナはなぜ収まらないのか！

仏さまの教えに照らしてみると当分コロナ感染症は収まらないと思います。

薬師経の中に、末法の世となり国に正法しょうぼう（仏の正しい教え）が行われなくなり鬪諍堅固とうじょうけんこの時代になると、「疫病えきびょうが流行はり、異常気象や地震、噴火などの天変地異が起こり、侵略戦争や内乱が起きる」と書かれています。身体で言えば外むしほからの災いは交通事故やいじめ、内乱とは体を蝕むガンや様々な難病です。

現在のロシアとウクライナの戦鬪、それを取り巻く世界情勢は、自国の利益中心にぶつかり合う自己中心的な我と欲、力と力のぶつかり合いであり、鬪争堅固そのものです。正しい仏法による政治が失われている状態では、疫病であ

るコロナ感染症は当分収まらないでしょう。

◇ 正法実践で感染を防ぐ！

コロナを正しく受け止め、正しく対処することが大切です。大衆心理や二転三転する情報に翻弄ほんろうされ、ただじつと家に閉じこもり、すべての行事を取りやめ、必要以上に恐れるのは「凡夫ぼんぷの知恵」です。さりとて、ワクチンさえ打てば大丈夫とか根拠のない「自分は大丈夫」と自由奔放ほんぽうに振る舞うのは「匹夫ひつぷの勇、野蛮で愚かな暴挙」です。

法華経は闇雲やみくもに「拝めば治る」という非科学的な迷信的宗教とは違います。手洗い、マスク、うがい、三密は控える、換気を頻繁ひんぱんするなどの科学的合理的な行動を守ったうえで、社会に迎合げいごうするのではなく、信仰者として正しい行いと信念をもって行動することが大切です。

國に正法が行われていないのなら、せめて家庭の中で正法を實踐して自らを守らなければなりません。法華経は「元品がんぽん（根本）の無明むみやう（本当のことを知らない無知の暗闇）を切る大利剣だいらいけん、生死しやうじ（変化や迷い）の長夜を照らす大灯明」ですが、毎日しっかりお経を上げ、法話を学び、仏さまの智慧に基づいた実践

をしていないと折角の仏心という名刀も切れ味が鈍り、希望の燈明も光を失い真つ暗闇の生活になってしまいます。

最近、夫婦喧嘩ふうふげんかが増えていますか、親子や兄弟はもめていませんか、自分が病気になったり、家族に病人は出ていませんか？もし、そうだとしたら家中にも「末法の現象」と今年の「五黄中宮の腐敗作用」が始まっているのです。

①毎日ちゃんとお経を上げて心を浄めていますか？

②教会法座にお参りして仏法の正しい考え方を学んでいますか？

③師の添削を受けて進む方向のズレを修正していますか？

毎日お経を上げていませんと心はすぐに曇ってきます。三日にあげず法話を聞きませんとすぐに凡夫の考え方に戻ってしまいます。特に大切なのは「師の添削を受ける」ことです。妙法は「彼岸（幸福）に至る大船」です。妙法という立派な船に乗って、祈りという燃料を満タンにしても、進む方向のかじ取りが間違っていたら、目的である幸福の岸に着くことはできません。添削を受けない自分流では、人生という大海原で漂流し本当の安心立命はありません。

◇コロナに感染しない、コロナから早く治るには！

最近は、子供や学生が学校でコロナに感染し家庭内で広がる「家庭内感染」が急増しています。どうしたら、コロナに感染しないか、感染してもどうしたら早く治ることができるか！答えは簡単明瞭です。

すべて世の中は「縁」でつながっていますから、家族や身近な人、大切な人を嫌った縁で人から嫌われる「菌」に感染するのです。もし感染してしまったら、大切な人を嫌ったことを心から懺悔し、相手の長所を見て感謝に切り替えるとお誓いし実践すれば早く治ることでしょう。

また、「怒りは地獄の業ごうなるべし。病氣、貧乏、災難の元」と教えられますから、人はもちろんのこと仕事に対しても、すぐ怒ったり、腹の底から怒りを持つとやはりコロナにかかりやすくなります。何事も感謝の心で受けましょう。

◇知恵の生活から智慧の生活に切り替える

知恵は教えの無い凡夫の常識の価値観です。

物事を損か得かで判断し、自分が得をするための考え方「自利」であり、自分の思うようにしたいという「貪欲」、満足することのない欲の考え方です。智慧は仏さまの教え（真理）に基づいた仏さまの価値観です。

何事もどうしたら徳が積めるかで判断し、相手が喜んでくれるための考え方であり、「利他」の実践です。

わかりやすく例えれば、貧乏な人がお金持ちになりたいとあくせく考えることが「知恵」です。病人が早く治りたいと薬わづをもつかむ思いで医者や薬だけに頼り、あっちの医者がいい、こっちの薬がいいと右往左往するのが「凡夫の知恵」です。

反対に貧乏な人が貧乏のまま毎日を楽しく考えること、病気をしながらも家族に対する感謝や喜びを感じることができなのが「智慧」なのです。

つまり、ありのままの現実を喜ぶ、なったことに喜びや感謝を見つけ出せる考え方が「仏さまの智慧」です。あなたは自分中心の「凡夫の欲の知恵」で暮らしていますか？まず人様の「仏さまの感謝の智慧」で生活していますか！

ちよつとした価値観の違い、受け止め方の違いかもしれませんが、毎日の積み重ねで、時がたつほど先へ行くほど結果は天と地ほど大きく変わります。

◇平和をもたらす仏陀の言葉

いま世界中で、ロシアに対する非難と平和解決を願う声が上がっています。

良いことです。武力を武力で抑えても、恨みは残ります。根本解決になりません。ブツダの真理の言葉（中村元訳）があります。

「実にこの世においては、怨みに報いるに怨みをもつてしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である」

「怨みに怨みで返すのは、強さではない。怨みを捨てられることが、本当の強さだ」

「耐えることは、弱さではなく強さであり、怨みを捨てることは、消極的な善というよりも、積極的な善いことだ」

「仕返しをするのは、強さではなく、弱さであり、他人を攻撃することは、どんな理由があろうと、新たな悲しみを生む悪だ」

「怨み、憎しみは、自分の周りの世界を醜くする。周りの悪いところばかりが目につくようになってしまう。人を信じられなくなる。そうやって、さらに自分を追い込んでしまう。一人一人の忍耐と強さが、平和と安心を生む。そう信じて、自分にできることをしよう」

心を落ち着けて自分自身の心遣いを振り返りましょう。

釈尊物語

①9

◇◆心の汚れをとる

素直な心が修行の根本◆◇

お釈迦さまのお弟子に優劣正反対の兄弟がありました。

周梨槃特（シュリハンドク）は兄の摩訶槃特（マカハンドク）に誘われてお釈迦さまの弟子となった。兄は聡明そうめいであったが、弟のシュリハンドクは教えの一句さえなかなか覚わず、修行の作法や方法も覚える事のできないほど愚鈍ぐどんであった。

何年も修行を続けるのだが、彼は自分の無能さに絶望し、教団を去ろうとした。

その時、お釈迦さまの「自らの愚を知る者は真の知恵者である」という言葉を聞いて思いとどまる。

でも、彼にはどの修行も無理であった。そこで、お釈迦さまは彼に一本の箒ほうきを与え、「垢あかを流し、塵ちりを除く」と唱えながら、精舎しょうじやを隅々まで掃除する仕事を与えられた。彼は一心に掃除をした。

何年もたったある日、シュリハンドクはお釈迦さまに「どうでしょうかきれいになったでしょうか？」と尋ねると、お釈迦さまは「まだ駄目だめだ」と言われる。どれだけ隅から隅まできれいにしても、まだ駄目だといわれる。シュリハンドクはそれでも腐くさらず、素直な心で黙々と掃

除を続けました。

ある時、子どもたちが遊んでいてせつかくきれいに掃除をした所を汚してしまつた。シュリハンドクは思わず箒を振り上げて怒鳴つた。「こら！どうして汚すんだ」

その瞬間、彼は本当に汚れている所が気がついた。

それ以来、汚れが落ちにくいのは人の心も同じだと悟り、ついに仏の教えを理解して、阿羅漢果を得たとされる。

そして、お釈迦さまはシュリハンドクが一生懸命に掃除をしている姿をいつも手を合わせて拝んでおられたのだという。

修行の大切なことは、教えの難しい語句を覚えたり、厳しい行をすることではないのです。

今日与えられた自分の仕事や役目に対して、どんなつまらないような仕事でも、喜んで素直な気持ちで怠らずに続けていくことが大切なのです。

自分はやっているという慢心に気づき、「させてもらっているんだ」と謙虚になつたとき、悟りが開けるのです。

そして、自分の成功や活躍の陰には、お釈迦様のように親や周囲の人々の思いに守られていると解つたとき、その努力や修行は本物になるのです。

今月の運勢（4月）

（2022年4月5日～5月4日）

一 白水星

じつくり腰を落ち着けて、周囲の状況を見極めながらエネルギーを蓄えよう。自分も周囲から見られていて、で、隠し事や不用意な言動に気を付け、特に人間関係のトラブルには注意しよう。

二 黒土星

目上と目下、年配者と若者が互いに理解し、気持ちを通じ合えば物事は成就する。天地の交わり陰陽の和合がポイント。目上を尊び、素直に従えばさらに大きな成果が表れる。

三 碧木星

収穫の時だが最初に無

理をすると後々尾を引

いて何事もうまくいかない。まだ機が熟していないので、盲進はいいけない。第一ボタンの掛け違いは最後まで苦労を招くのでくれぐれも注意すること。

四 緑木星

山にぶつかり一旦止まるが、気持ちを切り替えて水が流れるように徐々に動きを開始しよう。何事も急進せず、準備万端抜きなく細心の注意を払って進めれば利益が得られる。

五 黄土星

太陽の日に照らされ気分も明るく、活動的アイデアも豊かに湧い

てくる。何事にも情熱

をもって行動しよう。但し、争いごとは大事に発展しやすいので注意すること。

六 白金星

事が発展伸長する段階でいろいろと苦悩が付きまとう。人間関係のぶつかり合いに巻き込まれやすいので注意すること。強引に解決しようとせず、公平な第三者に相談して時を待つこと。

七 赤金星

喜びの心があれば、人も物も大いに集まる。人、物共に充実しているので大きな犠牲を払ってでも積極的に

打って出てよい。目的

は達成できるが、油断しないように。

八 白土星

平素から人を喜ばせ徳の積める一言を心掛けて人徳を磨き、暴飲暴食を慎むことで健康な体を養うこと。ライフスタイルが正しく整っていれば求めなくても吉が訪れる。

九 紫火星

困難な問題やトラブルもじつくり時間をかければ、解決できる。時代に沿った新しいことを始めたり、新しい人材を育てる好機である。高運気なので願事は大いに叶う。

「まごころ誌代」御礼

樋口恵美子	今園雄太	細谷早予子	高橋文子	今井龍廣	今井純司	増田恵美子	山本季美衣	木村正美	佐藤光洋	佐藤百々枝	伊東 晃	安田初子	半澤照子	横山知津子	土川廣美	土川康二	土川恭代	土川順寛
谷口祐晟	平口富子	宮島りえ	笹原正子	笹原トミ子	坂本育身	大下裕子	村上視佑記	出田梓	永田雅子	小村友子	滝山恵依子	堀田純子	荒木敬依子	小林佑実子	東島杏衣	片桐淳子	林田早紀子	樋口容子
亀井由実子	亀井善広	亀井善二	田中佑季子	田中庸仁	高橋身衣	松本真由美	松本裕樹	岸本昌子	東森敦己	高橋けさ江	滝本光夫	鈴木正巳	京川春男	小山征時	石丸祐視子	正木みつ子	某女	谷口祐子
多田正幸	足立珠紀	足立和美	横井富雄	横井明彦	後藤千代子	小谷恭代	横井志奈子	松尾定洋	宮田雄貴	早野桂子	早野起世	横山侑可	加納啓至	田中花音	田中宏明	田中啓予	田中理夏子	田中光隆
			福元正子	四日市某	笠井稜介	笠井隼太	笠井和樹	鈴木光隆	水田祐記子	岸本昌子	加納優子	加納快志斗	加納宏樹	加納悠貴	澤 芳子	澤 君美	多田佳央	多田道子

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

弱い自分に勝つ

愚痴、不平不満、怒り、

嫉妬、自己嫌悪、卑下、

慢心、誘惑、怠け心：：

他人に勝つことも難しいが

自分に^か克つことが一番難し

い、でも一番楽しい

(新庄語録参照)

お気軽にご連絡ご相談下さい

【総本山真生寺】 〒501-1105

岐阜市彦坂 178 番地

TEL 058 - 235 - 7304

【岐阜教会】 〒500-8882

岐阜市西野町 3 - 19

TEL 058 - 262 - 9615

【大阪教会】 〒532-0028

大阪市淀川区十三元今里 3-4-10

TEL 06 - 6308 - 5637

【名古屋教会】 〒454-0808

名古屋市市中川区九重町 3 - 10

TEL 052 - 351 - 3904

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。

2022年3月10日発行 第199号(通巻304号)
※誌代無料(浄財の献金により無料発行しています)